



わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和6年 4月号
児童数378名 文責 澤村幸夫



新生活 はじめの一步



春のそよ風は、心や体のわくわく感とともに、前に一步踏み出す背中を押してくれるようです。不安の中にも次なるステージへの勇気を与えてくれます。校庭の桜の開花は、例年より遅く、入学式を待っていていたようです。4月8日(月)、55名の新入生を迎えて入学式を行いました。お家の方々の、温かいまなざしと愛情に包まれて入学してきた子どもたちは、とても緊張したと思います。これから広がる小学校での生活を、お兄さん、お姉さんとともに、その子らしい生活ができるよう教職員一同、努力して参りたいと思います。

新2~6年生に進級した皆さんも、新しい学年の始まりに希望をふくらませていることと思います。不安なこともあるかもしれませんが、一步一步前進していきたいと思っています。新しい学年の「はじめの一步」。その足どりは、一人一人違うかもしれませんが、私たち学校は、引き続き、子どもたちの健やかな成長をご家庭と共有し、教育活動の充実に努め、地域の皆様に支えていただきながら、保護者の皆様と手を携えて進んで参ります。ご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

今年度の教職員です。よろしくお願ひします

- ◇ 校長:澤村 幸夫 ◇ 教頭:***** ◇ 教務主任:*****
- ◇ 教務:***** (生徒指導・校内研究)・***** (教科専科・OJT 推進)
***** (子ども支援コーディネーター・教育相談)
- ◇ 養護教諭:*****・***** ◇ 事務職員:*****
- ◇ 非常勤講師:***** (初任者研修後補充)・***** (3年算数少人数)
- ◇ 特別支援アシスタント:*****・*****・*****
- ◇ 用務員:*****・***** ◇ スクールサポートスタッフ:*****
- ◇ 学校生活支援員:*****・***** ◇ 配膳員:*****・*****
- ◇ 拠点校指導員:***** ◇ スクールカウンセラー:*****



学校のイエローメロンディスカス
本文との関連はありません。

学年	担任	担当
1年	A:***** ・ B:*****	*****
2年	A:***** ・ B:*****	
3年	A:***** ・ B:*****	*****
4年	A:***** ・ B:*****	
5年	A:***** ・ B:*****	*****
6年	A:***** ・ B:*****	
お花	A:***** ・ B:***** ・ C:*****	

チーム担任制

各クラスにはそれぞれ担任を配置しますが、「学年みんなが担任」を合言葉に、学年全員の子どもたちを担当するという意識で関わります。教科指導も複数の教師が担当します。A組、B組、C組の担任が授業を交換したり、時には担任が入れ替わり、朝の会・給食・掃除・帰りの会を行ったりします。

学校教育目標



学校では、「どんな子どもに育ってほしいのか、何をめざして日々の教育活動をおこなっているか」の根本になる柱を作成しています。毎時間の教室での授業をはじめ、校外での学習など多くの活動は、この「学校教育目標」を達成するために実施するものです。

予測困難な未来を子どもたちがたくましく幸せに生きていくために、知識や技能だけではなく、思考力・判断力・表現力を身につけていきたい、さらに、課題を解決するに留まらず、自ら課題を見つけ、周囲と関わりながら協働して課題解決していく力を大切にしていきたいと考えています。

また学校は、地域社会とより連携を深め、相互的に協力し合い子どもたちを共育していくことが必要です。「自然・歴史・人」に恵まれる和邇地域の強みを生かして、子どもたちのより良い教育環境に向けて努力していきます。本校の学校教育目標には「私たちが生まれ育つ、和邇に誇りと親しみを持つ児童に育ってほしい。そして思いやりの気持ちを持ち、多くの人々と関わり学び合う中で、深くつながり、心も身体も頭も健やかに成長してほしい。」そんな意味が込められています。

『わに あい ころゆた とも とも まな あ 『和邇を愛し、心豊かに友とつながり、学び合う』』

- 【知】 自ら考え、知恵を出し合い、ねばり強く学び合う子ども
- 【体】 生命を尊び、健康でたくましい子ども
- 【徳】 思いやりの気持ちを持ち、心を合わせる子ども
- 【地域】 生まれ育った和邇を愛し、大切に作る子ども



教職員・子どもの目標として、親しみやすく「わ・に・つ・こ」の頭文字から、このような言葉で言い表しています。この4つの視点を大切に、子どもを見つめ・認め・褒める中で「和邇を愛し、心豊かに友とつながり、学び合う」子どもの育成に向けて努力していきたいと思えます。ご家庭でも共通の声かけをしていただけるとありがたいと思えます。

わ たしから考える子



に こにこ元気な子

つ づけてがんばる子

こ ころを合わせる子



「わたしから考える子」(知的側面)

「基礎基本を身につけ自ら考え実践する子どもを育てる」ことをめざします。自分の頭で考え、「自ら」あいさつ、「自ら」学習、思いやりや心遣いの心を行動で表すなど、「思い」で終わらず「実践」できることが大切です。

「にこにこ元気な子」(身体的側面)

「生命を尊び健康でたくましい子どもを育てる」ことをめざします。「にこにこ」と幸せに生活するためにはお互いに何をしなければならないか考え、心も体も健康でたくましく育ってほしいと思えます。

「つづけてがんばる子」(情意的側面)

「進んで取り組み、ねばり強くやりとげる子どもを育てる」ことをめざします。結果だけでなく「粘り強くやり遂げる」ことを応援します。

「ころを合わせる子」(社会的側面)

「思いやりの心を持ち、協力・協働できる子どもを育てる」ことをめざします。よりよい人間関係を作っていく力は生きていく上でとても重要な力です。「協力・協働」できる資質は、実際に経験し学ぶことで身につけていきます。

新シリーズ「未来への扉」 第1弾 「スマホ脳」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。これまで、「自尊心を高めるために」と「子どものウェルビーイング」というシリーズものを掲載してきましたが、今年度は「未来への扉」と名づけました。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力はいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人（親や教師）はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思えます。

第1弾は「スマホ脳」です。人間の脳は「生き延びるために」ストレスを感じる仕組みになったと言われていています。現代は、昔に比べると、あきらかに安全で快適な社会になってきました。にもかかわらず、私たちは日々、多くのストレスにさらされています。文明が進歩しても、なぜ私たちはこれほどストレスを感じるのでしょうか。

スウェーデンの精神科医、アンデシュ・ハンセンさんは、著書の中で、次のように説明しています。



学校のカクレクマノミとサンゴイソギンチャクとの共生
本文との関連はありません。

「人類の誕生は今からおよそ25万年前。その長い歴史のほとんどを狩猟採集生活で過ごしてきました。そこで最も重要だったのは病気やケガ、飢饉や自然災害から『生き延びる』ことだったのです。生き延びるためには、不安や心配（ストレス）によって、危険を察知しなくてはなりません。そのような脳の防御メカニズムを携えながら進化し、さまざまな病気や災害をすり抜けてきた人たちの子孫として、今、私たちは存在するのです。」

私たちは、不安や心配を感じるのがストレスとなり、それは良くないこととして捉えがちですが、人間の本来の姿なので、ストレスを感じてはいけないと思う必要はまったくないということになります。ハンセンさんは続けます。

「しかし、現代文明は、人類の長い歴史の中ではほんの一瞬。長い時間をかけて進化してきた脳は、デジタルやAIに囲まれた生活環境の急激な変化に対応できていません。では、どうすればストレスに強いメンタルを育てることができるのでしょうか。重要なことは、ストレスを感じないようにすることではなく、ストレスへの耐性をつけることです。そのポイントは、良質な睡眠、運動、人とリアルに会うことの3つです。近年、子どもたちのメンタル不調が増えているのは、これらの3つが明らかに不足しているからです。その原因にスマートフォンが関係していることは間違いありません。」

そうです。私たち大人の生活も、実は多くの時間をスマートフォンの画面を見る時間に奪われています。子どもたちへの調査では、1日3~4時間もスマートフォンなどのデジタル機器の画面を見ているという結果が出ています。これでは、ハンセンさんの言う睡眠や運動、人と会う時間が失われていくのは当然です。

刺激が大好きな脳にとって、次々と新しい情報を提供してくれるスマートフォンは、実に魅力的な道具です。それはまるで、お腹がすいた時に、目の前においしいお菓子が「さあ、どうぞ」と置いてあるようなものです。私たち大人にとってもコントロールが難しいスクリーンタイム（デジタル機器の画面を見る時間）ですから、子どもたちならなおさらです。周囲の大人が、きっちりとルールづくりをし、徹底できるかがカギとなります。（本当に子どもの将来を心配する親は、少なくとも小学生の間はスマートフォン等を買って与えていません。）子どもたちのスクリーンタイムをコントロールするには、使用時間のルールを決め、徹底することや、寝室等にスマートフォンを持っていかないなど、物理的に距離を置くような方法が必要です。子どもも大人も、良質な睡眠をとり、適度な運動をし、人とリアルに会うことで、ストレス耐性をつけていくことは、幸せな生活を送るためにも極めて重要です。



学校のアクアマリン
レッドテールグッピー
本文との関連はありません。